板書計画

～郷土の先人に学ぶ～

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| （医者）  ・１９０１年（明治34）生まれ  ・座間市入谷に内科、小児科医院を開く | 胸像の写真  （写真①） |  | 「ここに聖医ありき」  （写真②） |  |
|  | | |
|  | | | |

|  |  |
| --- | --- |
| 模造紙  ・学校の成績抜群  自分がもらい子だったことを知る 本籍は石川県 → 神奈川の高校に  ↓ 入学できず  反抗的になる 実力があるのに中学入学不可  　　兄のいる神戸へ  ・中２のとき育ての母が亡くなる（５６歳）  母が政三に医者になるように言い残す  ・大正10年　２年間の浪人後、長野県松本高校へ入学  ”ゴリラ”というあだ名  ・「悩み 」　・不況で兄からの仕送りが途絶える  ・心から甘えられる肉親がいない  ・１９２５年　　金沢医科大学に入学  ・１９２９年 卒業　→ 軍医になる（陸軍）  ・１９４０年　　志願して中国に赴任 出世 傷病兵を救う  戦後、国立相模原病院の内科医長として勤務  食糧不足　→　病院の庭を開墾 （入院患者のために）  ・１９３２年　結婚　３人の息子を授かる  家計が苦しい → 国立病院の医師として高い地位に昇ることを断念  ↓  座間に医院を開業する |  |

|  |  |
| --- | --- |
| Ｑ１　地域の人々にとって、庵先生はどんな存在だったのだろう？ |  |

　 ・どんな人にでも親切に診察してくれる優しい医者

　 ・地域の人たちにとって、心強い存在

　 ・人柄を慕い、心から尊敬される医者

|  |  |
| --- | --- |
| Ｑ２ 庵医師の胸像は、私たちに何を伝えているのだろう？ |  |

・地域にすばらしい医師がいたこと

・地域医療に尽くした庵先生への感謝の気持ち

・人々のために尽くすことのすばらしさ

・地域の絆